No.51

けやき

特集　赤ちゃん絵本ふれあいタイム

REPORT　けやき総会・図書館懇談会と
ボランティア交流会

図書館友の会けやき　ニュースレター　2016. 9. 5

特集　赤ちゃん絵本ふれあいタイム　—左京図書館での 13 年とこれから—

図書館で赤ちゃんに寄り添って

図書館友の会けやき　永井 麻里

毎週木曜日の午前中、左京図書館の絵本コーナーでは、中央に置かれた絵本ラックやオススメ絵本が詰まったカゴのまわりで、何組もの赤ちゃん連れの親子が絵本を楽しんでいる姿が見受けられます。側には、オレンジのエプロン姿のサポーターがいて、子どもの月齢や個性に沿って選んだ絵本を読んだり、絵本探しのお手伝いをしたり…。

この左京図書館の「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」の活動は、2004 年２月から始めました。前年 2003 年 10 月から、京都市の保健センターでの生後８ヶ月時の健診の際に、ボランティアが絵本を読んだり、ブックリスト『ねぇ、よんで！』が配られるようになったのを受けて、「図書館でも継続して赤ちゃんと絵本をつなぐ活動を」と始めたものです。そのころの京都市の図書館は、必ずしも、「赤ちゃん連れ大歓迎」といった雰囲気ではありませんでした。館内に赤ちゃんの泣き声が響くと顰蹙を買い、それを恐れて利用を自粛するお母さんもいました。８ヶ月健診時に絵本との出会いがあっても、身近な図書館が利用しづらくては、引き続き親子で絵本を楽しみ読書の喜びを知ることは容易ではありません。図書館友の会けやきが利用者の立場で誰もが利用しやすい図書館の実現を目指し活動を始めてちょうど５年目のその年に、私たちは、赤ちゃんも図書館の主役である利用者のりっぱな一員であると考え、このような赤ちゃんと絵本との出会いを手助けする活動を始めました。

その後、年を重ねるごとに参加者は増え、昨年は少し減りましたが、ここ５年間は、毎年 50 回前後開催し、延べ約 350 組の親子・大人子ども合わせて 750〜800 人の参加がありました。ボランティアのサポーターも、ほぼ毎回 2 人体制が確保できています。5 年前からは左京区の京都市立保育所の保育士さんが参加してくださるようになり（当初は毎回、現在は月 1 回程度）、絵本のことだけでなく、子育ての相談に応じたり地域の子育てに関する情報を提供したりしてくださっています。

この活動は、おはなし会形式ではなく、ほとんどの場合一組の親子に一人のサポーターが対応しています。その結果参加者とサポーターの距離がとても近く、サポーターは、利用に関しての要望など図書館への生の声を聞くことができています。毎回それらをノートに記録し、サポーター連絡会で話し合って整理し、けやきが図書館に届けています。2009 年には、左京図書館が所蔵する絵本の背に、リクエストの多い「乗り物絵本」や「昔話絵本」など５種類のサインシールを貼ってもらいました。昨年は、それらのシール

の意味を利用者がよりわかりやすくするために、一覧表を大きくしたり数を増やしたりしました。要望に応えて図書館が乗り物絵本のリストを作成したり、質問の多かったテーマの本のリストも、サポーターが情報を出し合って作りました。

保健センターの生後８ヶ月健診時では、これまでの事業に加えて今年度から絵本 1 冊のプレゼントも始まりました。赤ちゃんがいるどの家庭にも、優れた絵本が少なくとも一冊はあるのは、うれしいことです。しかし、それだけでは広く奥深い絵本の世界を知り楽しむには、不十分でしょう。図書館での「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」の役割は、まだまだ大きいと思っています。

今回は３人の「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーターのみなさんに、日頃の活動の様子や思うこと等を寄稿していただきました。活動の様子がよくわかっていただけると想います。興味を持ってくださった乳幼児の保護者のみなさん、ぜひ赤ちゃんと一緒に木曜日の 10 時 30 分から 12 時の間に左京図書館の絵本コーナーにお越しください。また、「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」の活動が今後も継続できるよう、サポーターに新たな仲間が増えたらと、願っています。

「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」の活動について

藤田 道代

私は保育所退職後に、誘っていただいことがきっかけでサポーターを始めました。活動内容は、0 歳・1 歳・2 歳児の親子と対面での絵本の読み語りをしています。来館者が多い時は、全体での読み聞かせになっていることもあります。

「今日は、休みで…」とお父さんが来館されたことがありました。少し緊張されていましたが、自分のお子さんだけでなく他のお子さんも寄っていって、周りは暖かい雰囲気でした。また、おばあちゃんが「どんなことをされているのか知りたくて」と見学に来られたこともありました。学校休業日は、兄弟の参加で活気があり、小さい子ども達も賑やかな雰囲気を楽しんでいるように感じます。

「初めての絵本は何がいいですか？」「あまり絵本を見てくれないけれどどうしたらいいですか？」など０歳児・１歳児の保護者から相談があります。その都度、サポーター達がお話しすると安心されている感じでした。「家にある絵本です」「小さい頃、読んでもらったことがある！」「この絵本、懐かしい！」などなど、保護者の方が自分の母親を思い出したり、子ども時代にもどったりと楽しんでもらう場にもなっているようです。

秋になると保育園・幼稚園入所のこと、決定通知がくるまでの時期は、お母さん達の関心事になっているのが伝わってきます。

「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」は、赤ちゃんが絵本に触れ合う場であり、お母さん達が子ども時代を思い出す場であり、情報を得る場であるように思います。私にとっては、知らない絵本を、見せてもらったり、教えてもらったりする場となっています。

毎月一回赤ちゃんと向き合う１時間半

川端 春枝

昔、家事や仕事の傍ら、片手間に子育てをし、半分はおばあちゃんにしてもらった私には初めての経験で楽しみです。

指を動かし、唇を動かし、いないいないばあをしたり、本のページにある穴から指を覗かせて赤ちゃんを不思議がらせたり、自分で絵本に手を出す子がめくるページを読んでみたり、その子が見ている本と同じ画家の別の本を取り出して見せたり、ひたすら赤ちゃんの動きに添うことを第一にしています。

傍に来る子のない時には本棚から絵の美しい絵本を見つけて楽しみます。すると、自分の見ている本を抱えながら、私が広げている絵本の方をちらちら見てくれる子がいます。お母さんが同感して下さって借りて帰られる事もあります。

最初に見せるのは美しい本、と私は信じています。いくら目を引くからといって荒っぽい絵を私は見せたくありません。だって赤ちゃんが喜ぶからといって離乳食にチョコレートを与える人はいないでしょ。これは「押し付け」ではありません。自分で動けないうちは目に入るものを見るしかないのです。世の中に何があるのかも知らないのです。それに赤ちゃんは興味のあるものしか受け入れませんから、安心してお母さんが美しいと思うのを見せてあげてほしい、と思います。自分で取りに行くようになったら、なんでも見てくれればいい、それまでは。

はじめた頃とずいぶん違うと思うのは、赤ちゃんを連れてこられるお母さん、おばあちゃん、たまに来られるお父さんも、ごく自然に、上手に本を読んであげておられる事です。上手にというのは声色とか、メリハリの事ではなく、赤ちゃんに語りかけるように、です。

「一緒に読める本」それが絵本

辻 友子

我が子が小学生になり、「何か社会的活動がしたい」と思い、ご縁あってボランティアに参加するようになりました。以来かれこれ 10 年あまり、時代はめまぐるしく変わり幼い子どもがスマホを扱うような世の中になりました。ですが、この「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」では 10 年前とさほど変わらず、ゆったりとした時間が漂っていると感じます。

絵本とは不思議な本です。私たちが読書する時、誰かと並んで一緒に一つの本を読むなんてことはしませんが、なぜか絵本だけは違う。誰かと一緒に同じページをみて、笑ったり驚いたり時にはドキドキしたり…。何より絵本が特別なのは、赤ちゃんからお年寄りまで年齢を問わず楽しめることです。まだ言葉の拙い子どもが、知っているものを指差して「これ、これ！」と伝えるだけでも「そうね、○○ね」と頷いてもらえれば、嬉しいことでしょう。最近「魔法使いもオオカミもみんな優しい声でした」という内容のＣＭを観ましたが、絵本の世界を旅するとき、大好きなお父さんお母さんが一緒にいてくれるならば子どもはどんなに嬉しいことでしょう。怖いオオカミが出てきてもそれが親御さんの声で語られるのなら、きっと安心して絵本の世界で遊べるのではないでしょうか。

子どもに絵本を読んであげられるのは、まだ幼い頃のほんの数年だけです。この短くも素敵な親子の時間を皆さんにも味わっていただきたく、私たちボランティアは微力ながら絵本選びのお手伝いをさせていただいております。左京図書館の絵本コーナーは赤ちゃんと一緒でも気兼ねなく過ごせるスペースとなっていますので、ぜひお気軽にお立ち寄り下さい。

○左京図書館「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」

毎週木曜日 10 時 30 分—12 時 絵本コーナーにて

ご参加お待ちしています！

絵本囲んで赤ちゃんとなごやかに。
カゴにはおすすめの絵本がいっぱい。

赤ちゃん絵本のラック

けやきの本棚 No.51

女一匹

佐野洋子・広瀬弦著
マガジンハウス　1995 年

冒頭から「ワニの花子は恋人に捨てられた」という文章と崖からゴロンと捨てられてしまうワニの絵が目に飛び込みます。一瞬ドキッとしますが、ワニの花子が失恋してから立ち直るまでの過程が絵本のように丁寧に魅力的に描かれています。『100 万回生きたねこ』の作者である佐野洋子さんと広瀬弦さんの親子共著の作品です。

（左京図書館・菅原雅子）

REPORT　図書館友の会けやき総会
図書館懇談会とボランティア交流会

2016 年 6 月 13 日

2016 年度　けやき総会

6 月 13 日、会員 12 名と、来賓として市村左京図書館館長と村井左京区社協事務局長にお越しいただき、総会を開催しました。

市村館長より「開館時間・夏のクールスポットなどサービス向上に努めている。予約貸し出しが増える傾向にあるが、書架を巡ってもらって新たな発見をする場でもあるので、図書館の魅力をさらに伝える努力をしたい」 村井事務局長より「昨年同様の下支えをさせていただきたい。変化の激しい世の中で、じっくり考える言葉・読書は大切だと考えている」とご挨拶をいただきました。

その後、2015 年度の活動報告・会計報告が承認されました。「えほんのひろば in きょうと」は前年度に引き続き会場設営・工作コーナーなど工夫し、今年度は「赤ちゃん絵本コーナー」をつくり、赤ちゃん絵本サポーターに参加してもらったことなど報告がありました。

次に 2016 年度活動方針・予算が承認されました。今年度の活動テーマは「引き続き全国の図書館のあり方に関わる 情報を収集しつつ、今年度は、京都の図書館の現状・今後の方向性を再度確認し、利用者にとって一層 素晴らしいものとなるよう、協力･要望活動を行う」です。また、51 号から紙面リニューアルする「ニュースレターけやき」のデザインについて意見交換をしました。

総会に参加された会員 2 名が、今後事務局会議に参加してくださることになり、けやきの活動の継続・発展を期待する総会となりました。(田中)

第 12 回図書館懇談会

総会後 11：30 ～ 12：30 に開かれ、図書館からは市村館長と前田司書、けやき会員は 14 名が参加しました。

最初に自己紹介し、次に館長より図書館の現状の報告があり､平成 26 年度以降は開館日数が 300 日を超え､来館者、貸出冊数、予約数ともにわずかながら増加しており、図書費も、市の財政状況が厳しい中ではあっても、実質昨年度と変わらないと話されました。続いて運営体制・事業について具体的に説明がありました。それを受けて参加者から以下のような質問や提案がされました。

１．かつて小学生の図書館見学（学校ごとに社会見学の一環として図書館を訪問し、利用の仕方などを学んだ）が行われていましたが、現在は？という質問に対しては、館長より、要望のあった児童館のみのオリエンテーションを行ったとのことです。全小学校に対してアプローチをする手立てを考えてほしいと要望があり、館長からは会議の折に校長に尋ねてみたいと返答がありました。

２．学校司書の全校配置以降の団体貸し出しの様子については、前田司書より説明がありました。1 か月 40 冊、読書活動に 200 冊借りることができ、本の管理や手続きなど担当の先生の負担になることもあるので、それは今後の課題でもあること。また、資料が不足しているときは中央図書館の本を借りているということでした。

３．その他、以下のような意見や要望が出されました。

・校区外へは子どもだけでは行けないので、子どもだけではなく親へのアピールも必要ではないか？

・そのために図書館の情報を幼稚園や保育園にも配布して、様々な方法で伝える工夫が必要ではないか？

・スマホを使う人が増えている現状を受けて、具体的な方法としてＬＩＮＥなど発信ツールを若者向けにすることによって、利用者の層を増やすことができるのでは？

以上について、図書館も一考の価値があるとのことでした。また利用カードを忘れた時の対応については、他の方法で本人確認ができれば借りることができるようにしてほしい。一度に 10 冊以上借りたいという要望も出されました。(北園)

恐竜はホタルを見たか

発光生物が照らす進化の謎

大場裕一著　岩波科学ライブラリー 岩波書店 2016 年

この夏、夜の海辺でウミホタルを観察。青白く光るその不思議さに見入ったが、本書によると「現在の海は発光生物にあふれている」という。なぜ海で、なのか。ホタルをはじめ発光生物は進化の道筋でなぜ、どのようにして光るという戦略を手にしたのか。発光生物の研究者である著者が諄々と語る。白亜紀に、深海に、と時空を越え、「不思議」のさらに先に案内してくれる書。

（会員・蛍袋）

第４回　左京図書館ボランティア交流会

左京図書館にボランティアとして関わる人たちが、日ごろ感じていることを話し合う交流会。図書館が募集しコーディネートしている書架整理ボランティアと、けやき事務局や赤ちゃん絵本ふれあいタイム、おたのしみ会などけやきが呼びかけ活動するボランティアが、一堂に会し意見交換をしました。

書架ボランティアからは、書架の下の方はしゃがむと足腰に負担がかかり、年配の利用者にとっては見にくいのではないか。また、ある場所にあった本が複数冊まとめてなくなっていることがあるが、どういうことなのかという意見や質問が出され、同席いただいた市村館長から説明がありました。

ほかにも、最近始まった大津市・宇治市との連携や、インターネット予約のメリットとデメリットも話題になりました。

書架ボランティア同士で情報交換をするため、「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」や「左京図書館おたのしみ会」の活動と同様に、ボランティア間の連絡ノートを作ってはどうかなど、具体的なアドバイスもあり、実り多い集まりとなりました。

今回はじめて交流会に参加した書架ボランティアの３名の方々は、けやきについて、この交流会があるまで知らなかったとのこと。けやきの活動を広く知ってもらうことが必要だと感じました。(澤田)

けやきの活動記録

2016年　5月～8月

5/10　ニュースレター50号、総会・図書館懇談会
　　ボランティア交流会の案内、活動報告を印刷・発送
5/10．6/12．7/23．8/7．8/27
　　ニュースレターリニューアル打合せ（伊藤理・島崎）
6/上旬～
　　ニュースレター51号原稿作成・編集
6/13　第18回定期総会、第14回図書館懇談会、
　　第３回ボランティア交流会を開催
6/28　左京区社会福祉協議会ボランティア連絡会出席
（増井・永井）
7/上旬～
　　「読み聞かせ」交流会に向けて図書館と打合せ
9/5　ニュースレター51号印刷・発送
　　2016年度活動方針・会計決算報告・予算書発送

＜図書館おたのしみ会に協力＞（第４土曜）
　　5/28．6/25．7/23．8/27

＜絵本学習会＞（第４金曜日、3.7.9月は第２金曜日）
　　5/27. 6/24. 7/8

＜事務局会議＞＜図書館とのミーティング＞（主に第１月曜）
　　5/10. 6/6. 7/4

＜「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター活動＞
（毎週木曜日10:30―12:00）
　　5/5.12.19.26　6/2.9.16.23.30
　　7/7.14.21.28　8/4.11.18.25　9/1

一九八四年

ジョージ・オーウェル著
高橋和久訳　早川書房　2009年

この社会ではビッグブラザーという独裁者が支配をし思想・言語・結婚などを統制する。市民は双方向のテレビで監視され、密告が奨励される。労働者は娯楽が与えられまともに教育されない。寒々とした未来社会だが、これを完全に絵空事だはと言えない社会が、目の前に現れつつある気がしてならない。ちなみに「戦争は平和である、自由は屈従である、無知は力である」が支配の標語。

（左京区・ＡＩ）

図書館友の会 けやき の仲間になりませんか

知りたい 調べたい 本の世界を楽しみたい

そんな私たちの望みをかなえ　一人一人の世界を豊かにしてくれる場所

それが私たちの願う図書館です

京都市左京図書館が市民みんなの図書館としていきいきとあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか考え、活動したいと 1999 年に「けやき」を立ち上げました。図書館のスタッフとともに、左京図書館はじめ京都市図書館を支え、育てていきませんか。

次のような活動をおこなっています

であいの森

左京図書館のおたのしみ会（毎月第４土曜日 11:00）に協力。絵本を読んだり、ブックトーク・人形劇やおはなしも。

「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター

毎週木曜日 10:30 ～ 12:00、左京図書館絵本コーナーで絵本探しのお手伝いをしたり、絵本を読んだりしています。

誰もが利用できる図書館を考える

図書館の現状を調べ学び、図書館に提案をしています。

ニュースレター編集部

友の会のニュースレター「けやき」を作成し、図書館と利用者を結ぶけやきの活動の情報を発信しています。

事務局

けやきの活動の企画提案。図書館行事に企画･協力。各グループ間や左京図書館との連絡調整を行っています。

絵本学習会

毎月第４金曜日 10:00 ～。取り上げた絵本をみんなで読み合い語り合う楽しい学習会です。

講演会・学習会

主催または図書館との共催で年に数回、地元の講師を中心に様々な興味深い講演会・学習会を行っています。

◆入会希望の方は年会費 500 円をそえ、下記郵便振込口座にお申し込みください。

郵便振込口座　口座番号 00920-8-156914 番
口座名称　図書館友の会　けやき

◎年会費はニュースレターの印刷及び郵送費の一部に充当します。
◎活動費の寄付も歓迎。直接又は上記の振込口座をご利用下さい。

けやき情報版

左京南支部小学校ボランティア 読み聞かせ交流会

○ 第１回　9 月 30 日 (金)

「えほんたいけん・えほんたんけん」講師 中川あゆみさん

○ 第２回　10 月 7 日 (金)

「やってみよう 読み聞かせ」講師 左京図書館司書さん

「科学の本のブックトーク」講師 島崎真紀子さん

○ 第３回　10 月 11 日 (火)

小グループに分かれて絵本の読み語り実践交流

＊いずれも午前 10 ～ 12 時、左京合同福祉センター３階（左京図書館の上）大会議室にて

＊絵本の読み語りを始められたばかりの方も、ベテランの方も楽しく交流しましょう。

＊第１回と第２回は左京図書館絵本入門講座でもあります。毎年内容を刷新しています。他の地域や小学校以外で活動されている方、活動はしていないが絵本に興味関心がある方も、ぜひご参加下さい。

＊事前申し込み不要

＊問い合せ　京都市左京図書館　075-722-4032

編集後記

装いも新たに「けやき 51 号」をお届けします。1999 年 11 月の創刊以来、年 3 回の発行を積み重ねて 50 号を越えました。これを機に、若い力を得て、手に取ってもらいやすく読みやすい誌面構成を心がけました。内容も左京図書館での活動をベースに京都市図書館や全国の図書館についてそのあり方を、これまで以上に深く考えていきたいと思います。（島崎）

けやきは「だれもが使いやすい—だれもの生きる権利・知る権利を保障する—図書館」の実現を目指し、活動を続けています。「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」での活動もその一つ。昨今の障がい者や児童への攻撃・虐待事件を目の当たりにし、図書館が「他者を尊重する」ことを学ぶ場となってくれることを切に願います。（永井）

◇けやき 第 51 号　2016 年 9 月 5 日
◇制作　図書館友の会 けやき　ニュースレター編集部
題字 : 吉政 冨美子　　デザイン : 伊藤 理恵子
◇発行　図書館友の会　けやき
http://totomo-keyaki.com